

光とは、可能性そのもの。

HAMAMATSU
PHOTON IS OUR BUSINESS

光とは何か？ 光を使って何ができるか？

日々、私たちはこの問いに挑み続けている。

光のリーディングカンパニーとして、私たちが光にこだわる理由がそこにある。

光のことを追い求めていくと、毎日のように新しい発見に出会う。

その出会いとの日々魅了され続け、ここまで歩んできた。

新しい発見によって「わかる」が増えるたび、

「わからない」はあとどのくらいあるのだろうと考える。

そこに光のおもしろさがある。

「わからない」に真摯に向き合い、「わかる」を人類社会に還元する。

浜松ホトニクスは、これからも光と歩んでいく。

TOP MESSAGE

光の無限の可能性をひらき、
社会・環境・人類へのさらなる貢献を目指す。



私たちの身の周りに満ちあふれ、数々の恩恵をもたらす「光」。

浜松ホトニクスは、創業以来、光の可能性を追求し、
未知未踏の領域に挑み続けてきました。

その挑戦から生まれてきたユニークな製品や技術の数々。

それらに社会・環境・人類のニーズを先取りして

付加価値をつけていくことで、

さまざまな課題を解決していきます。

私たちは光による「社会・環境価値創造型企業」として、

挑戦を続けています。

代表取締役社長 | 丸野 正

浜松ホトニクス
グループ
経営理念



MISSION

わたしたちの使命・約束

—

Photon is our business

科学技術の進歩と
より豊かな社会・環境の実現に寄与
人類の健康と幸福に貢献

VISION

わたしたちの志

—

光の未知未踏領域を追求
光技術を用いた新しい産業の創造

VALUES

わたしたちの価値観

—

挑戦
～できないと言わずにやってみろ!～

科学技術

量子
宇宙・物理
生命科学

光技術

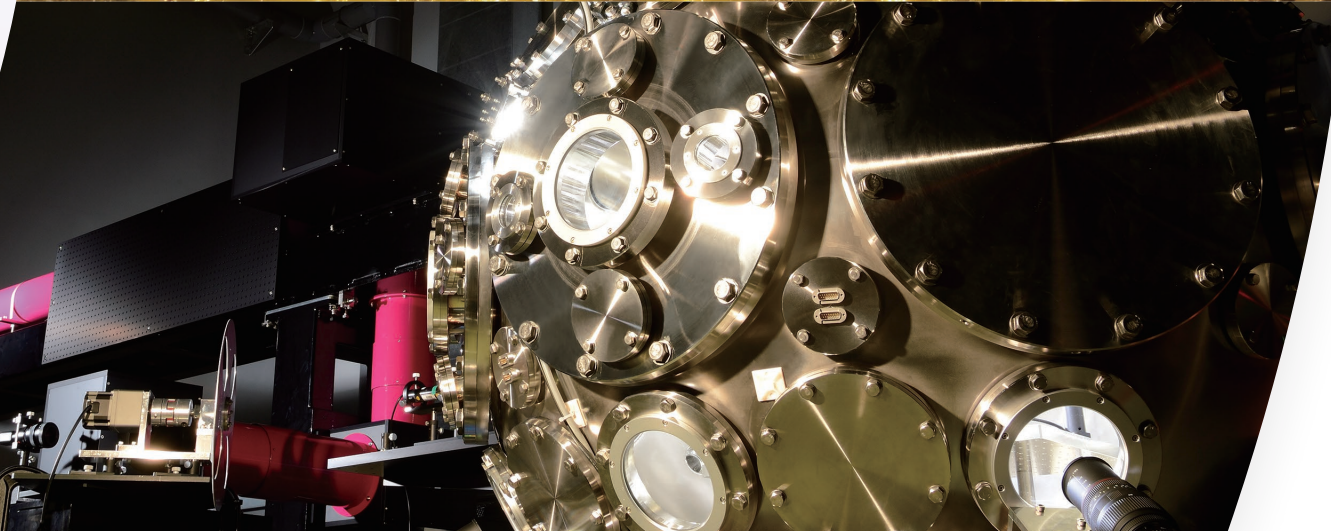
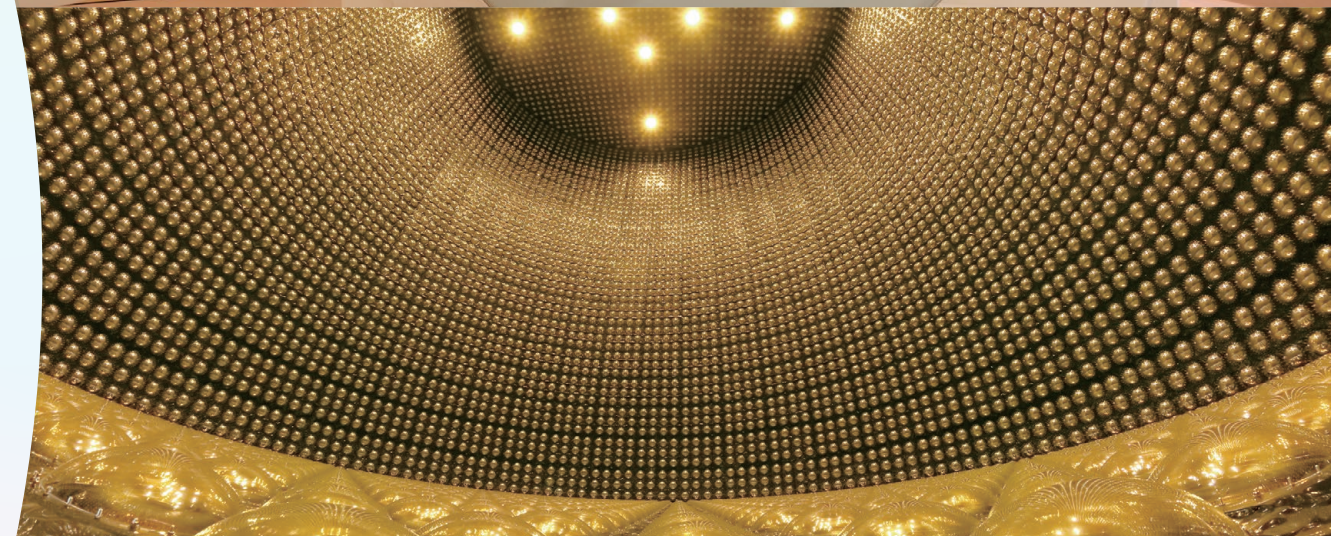
健康幸福

医療機器 / 検体検査
がん・認知症検診
創薬

社会環境

産業機器 / 半導体
非破壊検査 / エネルギー
分析

光で浜松ホトニクスが貢献できる領域



PET

健康長寿社会の実現を目指す

PETは、心臓や脳などの働きを断層画像としてとらえ、病気の原因や症状を診断する検査方法です。日本人の死亡原因第1位となっている「がん」発見の有効な手段として注目されています。当社は、健康長寿社会実現を目指し、PET装置用検出器の開発、製造だけでなく、さまざまな視点から応用研究を行っています。



ニュートリノ検出 カミオカンデ

ニュートリノ検出を通じて、
2度のノーベル物理学賞受賞に貢献

1987年2月23日、史上初の超新星爆発からのニュートリノ観測という大偉業を成し遂げたカミオカンデ。16万光年離れた超新星爆発からもたらされた千載一遇のチャンスをとらえたのは浜松ホトニクスの20インチ径光電子増倍管です。その技術は絶え間ない進化を続け、高性能化された現在のスーパーカミオカンデ、そしてハイパーカミオカンデ計画へと受け継がれています。



レーザー核融合

エネルギー問題と環境問題の2つを
同時に解決することを目指す

私たちの太陽は50億年にわたって光り続け、今も地上の生命の源です。いま、この太陽の恵みを人間の手で生み出すことができるレーザー核融合が注目されています。材料である重水素を無尽蔵に海水から取り出せるだけでなく、二酸化炭素の排出もないレーザー核融合による発電は、世界的なエネルギー問題解決の切り札として期待されています。

| 未知未踏への挑戦

人類には、まだできないこと、

知らないことが無限にある。

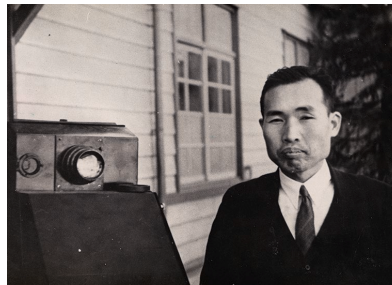
光を使って未知未踏領域を開拓していくことが

人類にとって役に立つ。

生き様を変えるような新しい産業を創成する。

日本のテレビの父
高柳博士の「未知」を追い続ける精神

浜松ホトニクスは、世界で初めてブラウン管にイの字を映し出した高柳健次郎博士の下で学んだ門下生（初代社長：堀内平八郎）が興した会社です。10年、20年先の社会に役立つ技術を開発しようと自らの研究テーマを追い求めた博士の胸中には、西洋の幸運の女神“フォーチュン”の姿があったといいます。前髪がふさふさしているが、後ろの髪がない。だから彼女をつかまえるためには、考えるすべての準備をしたうえで、こちらが先回りして彼女が来るのを待ち、前髪をつかまなければならない。新しいものを生み出そうという時の心持ち、それは高柳博士の技術を汲む浜松ホトニクスに脈々と受け継がれています。



当社のルーツ 高柳健次郎博士



ブラウン管に映し出された「イ」の字
(写真は再現装置によるもの)

浜松ホトニクスの軌跡

1953
浜松テレビ(株)
(旧社名)設立



1961
東京事務所(現 東京営業所)開設

1964
市野工場(現 本社工場)
開設



1966
ニューヨーク事務所開設

1969
アメリカ現地法人
ハママツ・
コーポレーション設立



1973
ドイツ合弁会社
ハママツ・テレビジョン・
ヨーロッパ・ゲー・エム・
ペー・ハー設立



豊岡製作所
開設



1979
大阪営業所開設

1980
常光製作所開設

1981
天王製作所開設

1983
浜松ホトニクス(株)に
社名変更



1984
株式会社頭登録

1985
本社事務所、筑波研究所開設

フランスに現地法人を設立

1988
イギリス、スウェーデンに現地法人を設立

中国に合弁会社を設立

1990 中央研究所開設

1991 イタリアに現地法人を設立

1994 都田製作所開設

1996 東京証券取引所市場
第二部上場



1998
東京証券取引所市場
第一部上場

2000 三家工場開設

2002
小柴昌俊東京大学名誉教授ノーベル物理学賞受賞
(当社の光電子増倍管が設置されたカミオカンデでの研究により)

2003
一般財団法人浜松光医学財団:
浜松PET診断センター竣工



2005
光産業創成大学院大学
開学

2008 産業開発研究所開設

2011 新貝工場開設

中国に現地法人を設立

2013
フランソワ・アングレール名誉教授、
ピーター・ヒッグス名誉教授ノーベル物理学賞受賞
(当社のSSD、APD、PMTが用いられたCERNでヒッグス
粒子を検出)

2014 「20インチ光電子増倍管」が
IEEEマイルストーンに認定

2015

梶田隆章東京大学教授
ノーベル物理学賞受賞
(当社の光電子増倍管が設置された
スーパーカミオカンデでの研究により)



2017 化合物材料センター開設
Energetiq Technology(アメリカ)を
子会社化

2020 韓国に現地法人を設立

2022
子会社 浜松ホトニクス・コーポレート・
ベンチャー・キャピタル(株)を設立

2024年9月期
売上高
2,039
億円

2023
横浜IT開発室開設

2024
NKT Photonics(デンマーク)、
Fairchild Imaging(アメリカ)を
子会社化

創業から製品の開発

高柳博士の精神を受け継ぎ、初代社長堀内平八郎が二代目社長晝馬輝夫らとともに浜松テレビ株式会社を設立。「世界No.1の製品を開発する」という目標に対し、「できないと言わずにやってみろ!」という精神で夢中で仕事に取り組みました。

1953

光電管の
製造開始



1956
映像管発売

1958
CdSセル発売

1959
光電子増倍管発売

1961

PbS光導電素子
製造開始



1963
赤外線用ビデオカメラ発売

1970
重水素ランプ発売

1972
Siフォトダイオード発売

光技術の用途拡大

新工場建設で生産体制構築。当時の製品用途は分析が主流でしたが、X線CT装置用光半導体を開発し、X線CT装置用光センサの市場を席卷。分析、医用から産業、学術、計測など幅広い分野へ用途が拡大しました。

1977

ストリーク
カメラシステム発売



事業部制で経営基盤確立

優れた企画・開発には、優秀な人材の確保が不可欠。そこで、社名を「浜松ホトニクス株式会社」にし、株式を店頭公開しました。一方、柔軟な企業活動を行うために事業部制を導入し、現在の経営基盤を確立しました。

1982
赤外LED発売

1984
キセノンランプ発売

1985
リニアイメージセンサ発売

高出力パルスレーザ
ダイオード発売

1986

フォトIC発売

1987

エキシマレーザ発売

人類未知未踏への挑戦

さらに高次な企業目標の達成には、「人類未知未踏」への挑戦が必要。その具体化として、中央研究所や、がんや認知症の早期発見を目指す浜松PET診断センター、光技術の人材を育成する光産業創成大学院大学を設立しました。

1994
マイクロフォーカスX線源発売

1998
フラット
パネル
センサ発売



2004
ステルスダビング
エンジン™ユニット発売

2005
ミニ分光器発売

2006
MPPC®
(Multi-
Pixel Photon
Counter) 発売



2007
量子カスケード
レーザ発売

光応用産業の拡大

コアとなる光デバイスの強化に加え、グローバル・ストラテジック・チャレンジ・センター(GSCC)を設立し、スタートアップ企業との連携や社内ベンチャー機能を構築することで光応用産業の拡大を図りました。

2011
ORCA®-Flash4.0
(科学計測用
CMOSカメラ) 発売

2016
MEMS-FPI分光センサ発売
MEMSミラー発売

2021
ORCA-
Quest
発売



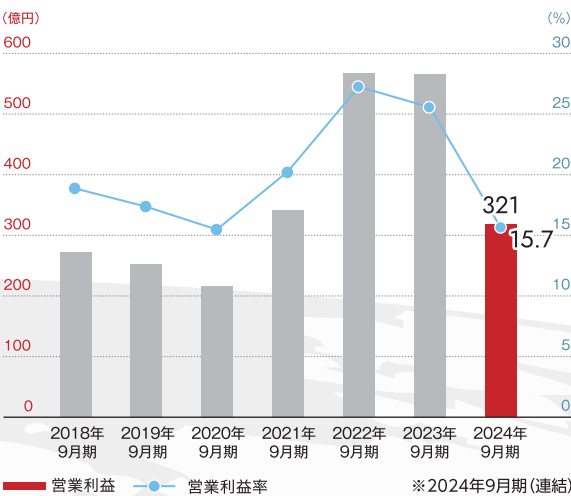
社会・環境価値創造型企業へ

お客様が求めるニーズのみならず、社会・環境ニーズも適切に把握するとともに、事業部間や外部機関との連携を強化し、より高付加価値な製品を提供することで豊かな社会・環境の実現に貢献していきます。

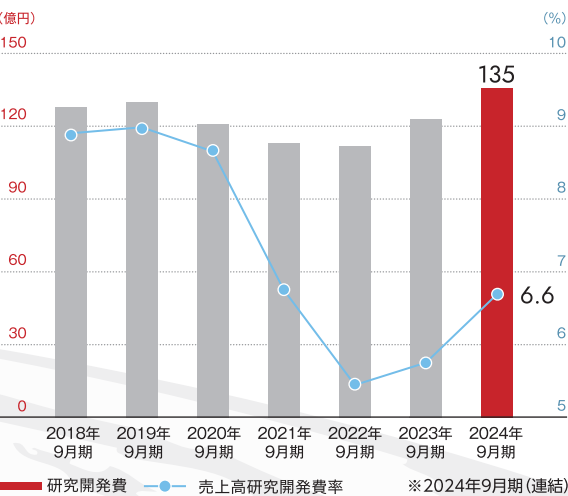
各種データから浜松ホトニクスグループの取り組みや
特長を紹介します。

売上高 2,039 億円

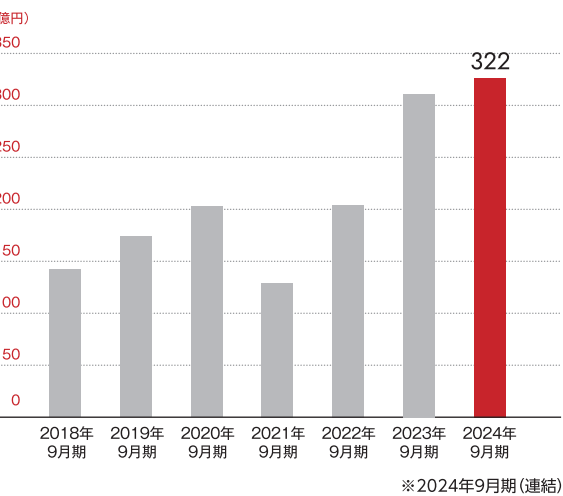
営業利益 321 億円



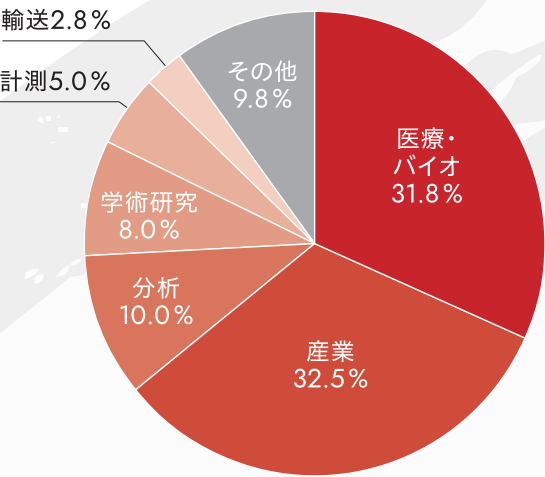
研究開発費 135 億円



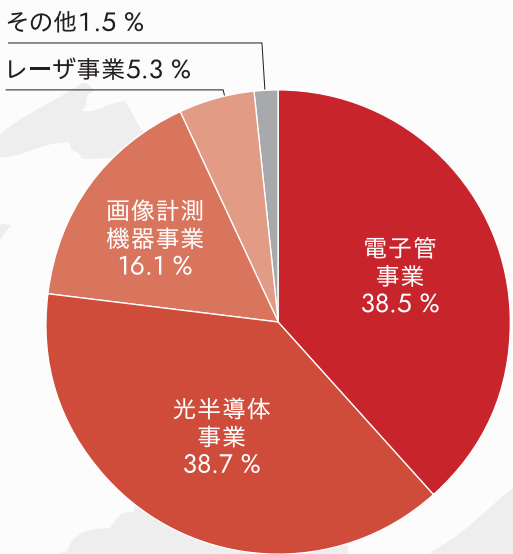
設備投資額 322 億円



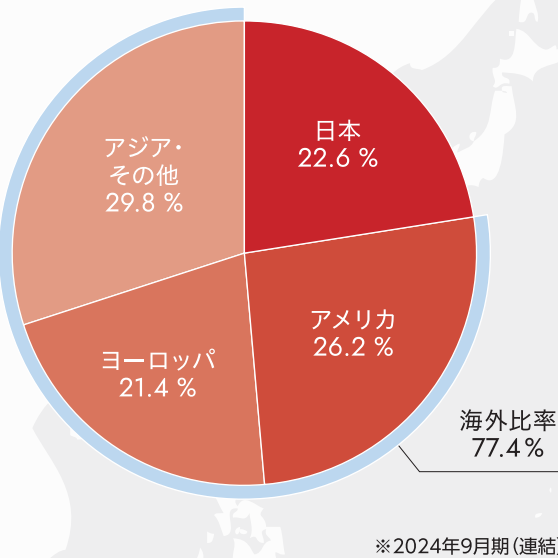
業界別
売上構成比



事業別
売上構成比



地域別
売上構成比

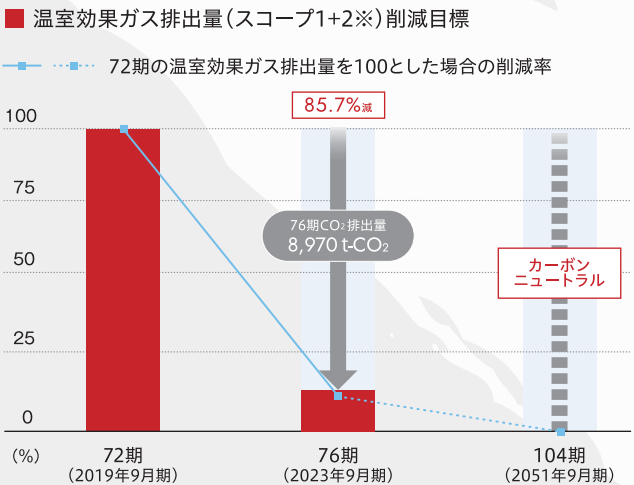


環境への取り組み

温室効果ガス排出量
(2019年9月期比)

85.7%減

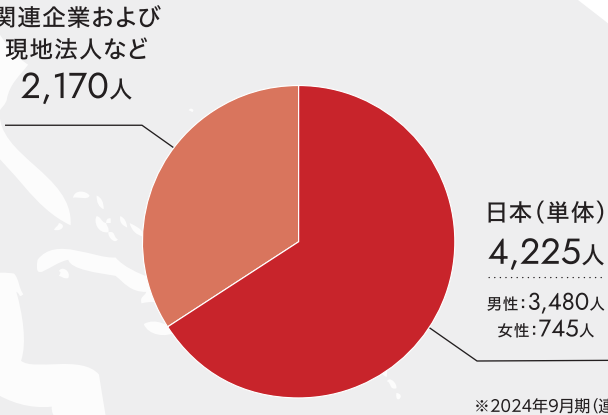
長期ビジョン
2050年に
カーボンニュートラルを達成



※スコープ1: 燃料、都市ガス、非エネルギーGHGなどの使用、フロン漏洩による直接排出
※スコープ2: 購入電力などの使用による間接排出

従業員数

6,395人



付加価値創造サイクル

浜松ホトニクスは、
光技術で社会価値を創造する
サイクルを推進します。

私たちは、それぞれの事業体がお客様との密接な関係を構築してニーズを聞き取り、それを把握して企画し、試作開発投資を行い製品を供給しています。

お客様のニーズに的確に対応していくためには、

自社で生産体制を確立することが非常に大切で、当社自社製造によるカスタム化がデバイスやモジュールの高付加価値化につながっています。

これまではこのサイクルを事業ごとに回してきましたが、

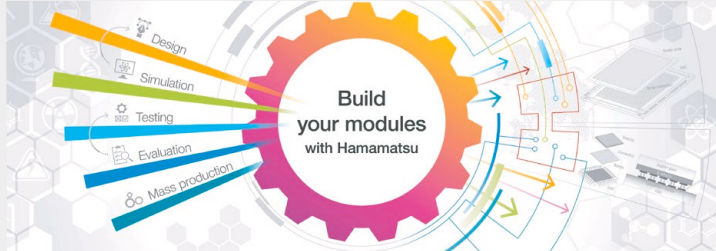
これからは事業間の連携を強化していきます。

さらに、お客様が気づいていない社会・環境・人類のニーズを

私たちが先回りして把握し、より高付加価値な製品を提供していきます。

これは私たちが持続的な成長を実現していくうえで非常に重要なサイクルであり、事業活動そのものによる社会貢献であると考えています。





高付加価値なモジュールの提供

お客様ごとに最適化する、光センサ、光学系、信号処理回路、ソフトウェアなど各事業のユニークな光関連技術を連携することで生み出されるカスタムモジュールは、装置の心臓部としてそのまま実装され、高い付加価値を提供します。従来のデバイスに加え、事業連携による高付加価値なカスタムモジュールにより、さらなるお客様のニーズに対応します。

事業紹介

BUSINESS INTRODUCTION

電子管事業 / 光半導体事業 /
画像計測機器事業 / レーザ事業 /
基礎研究・応用研究

※Energetiq Technology, Inc.(エナジティック・テクノロジー社)、Beijing Hamamatsu Photon Techniques, Inc.(北京浜松光子技術股份有限公司)、Fairchild Imaging, Inc.(フェアチャイルド・イメージング社)およびNKT Photonics A/S (エヌケイティ・ホトニクス社)は、浜松ホトニクスの完全子会社です。



電子管事業

光電子増倍管、イメージ機器および光源

■ 電子管事業部

高速・高感度な光電子増倍管を代表とする光センサや高安定・長寿命なランプ、それらの応用製品を開発・製造しています。

Energetiq Technology, Inc.

産業用および科学用に、高信頼性の高輝度広帯域光源を開発・製造しています。

Beijing Hamamatsu Photon Techniques, Inc.

光電子増倍管、シンチレータや計測機器などを、主に中国顧客を対象に開発・製造しています。



レーザ事業

レーザおよびレーザ応用製品

■ レーザ事業部

励起用レーザダイオードモジュールからニーズに合わせたレーザ応用製品、レーザエンジンまでを一貫して開発・製造しています。

NKT Photonics A/S

フォトニック結晶ファイバ製造技術を保有し、それらの要素技術を生かしたファイバレーザ光源をラインアップしています。



光半導体事業

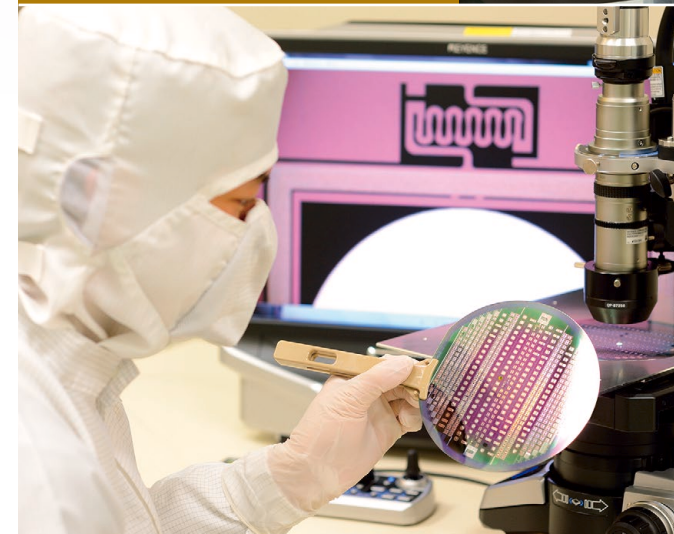
光半導体素子

■ 固体事業部

独自の半導体プロセス技術、実装/パッケージ技術、MEMS 技術を生かしたフォトダイオード、フォト IC、イメージセンサなどの光半導体素子を開発・製造しています。

Fairchild Imaging, Inc.

高性能なCMOS設計技術を保有し、科学計測やデンタルなどのイメージング用途に最適なイメージセンサを供給しています。



画像計測機器事業

画像処理・計測装置

■ システム事業部

光半導体素子や電子管デバイスなどの光センサをキーコンポーネントとし、光検出技術、イメージング技術、画像計測技術を統合したシステムを開発・製造しています。



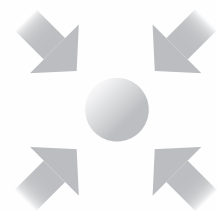
基礎研究・応用研究

光の本質を追求する基礎研究、そこで得られた技術や知識を産業に応用するための応用研究など、幅広い研究を行っています。

光を

「あやつる」
「つくる」
「はかる」

各事業の製品は、
“光”をはかり、つくり、
そしてあやつる技術から
生み出されています。

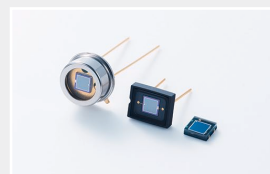


光を「はかる」

光を受けてものの情報をはかる



光電子増倍管



Siフォトダイオード



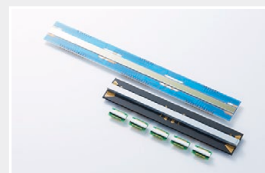
カメラ



イメージセンサ



赤外線センサ



X線センサ



分光器



半導体故障解析装置



バーチャルスライドスキャナ



光を「つくる」

電気のエネルギーを利用して光をつくる



ランプ



UV-LED光源



マイクロフォーカスX線源



レーザ励起
プラズマ光源 LDLS



LED



半導体レーザ



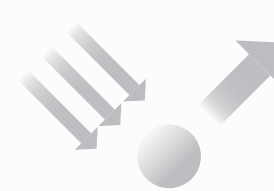
ランプモジュール・ユニット



ファイバレーザ



スーパーコンティニウム光源



光を「あやつる」

光の特性を使って自由自在にあやつる



ファイバ
オプティク プレート



LCOS-SLM



FACレンズ



テラヘルツ波長板



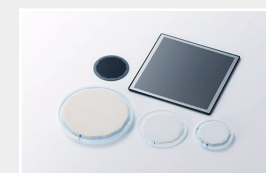
MEMSミラー



フォトニック結晶
ファイバ



オプティカルブロック



キャピラリプレート



キャピラリレンズ

最適なソリューションの提供

浜松ホトニクスは、「はかる」、「つくる」、「あやつる」

といった3つの技術を組み合わせることで、お客様が求める最適なソリューションを提供していきます。

メディカル



- ・歯科診断
- ・X線CT
- ・PET診断
- ・眼底検査
- ・血液検査
- ・がん組織観察

ライフサイエンス



- ・フローサイトメータ
- ・DNAシーケンサ
- ・蛍光イメージング
- ・創薬スクリーニング
- ・質量分析
- ・電子顕微鏡

環境



- ・ガス分析
- ・土壌分析
- ・水質検査
- ・プラスチックリサイクル
- ・水中光通信
- ・放射線検出

モノづくり



- ・エンコーダ
- ・電子部品検査
- ・レーザ加工
- ・食品検査
- ・半導体製造/検査
- ・UV接着

くらし



- ・自動車
- ・明るさ/色検知
- ・炎検知
- ・タッチレスディスプレイ
- ・ロボット掃除機
- ・手荷物検査

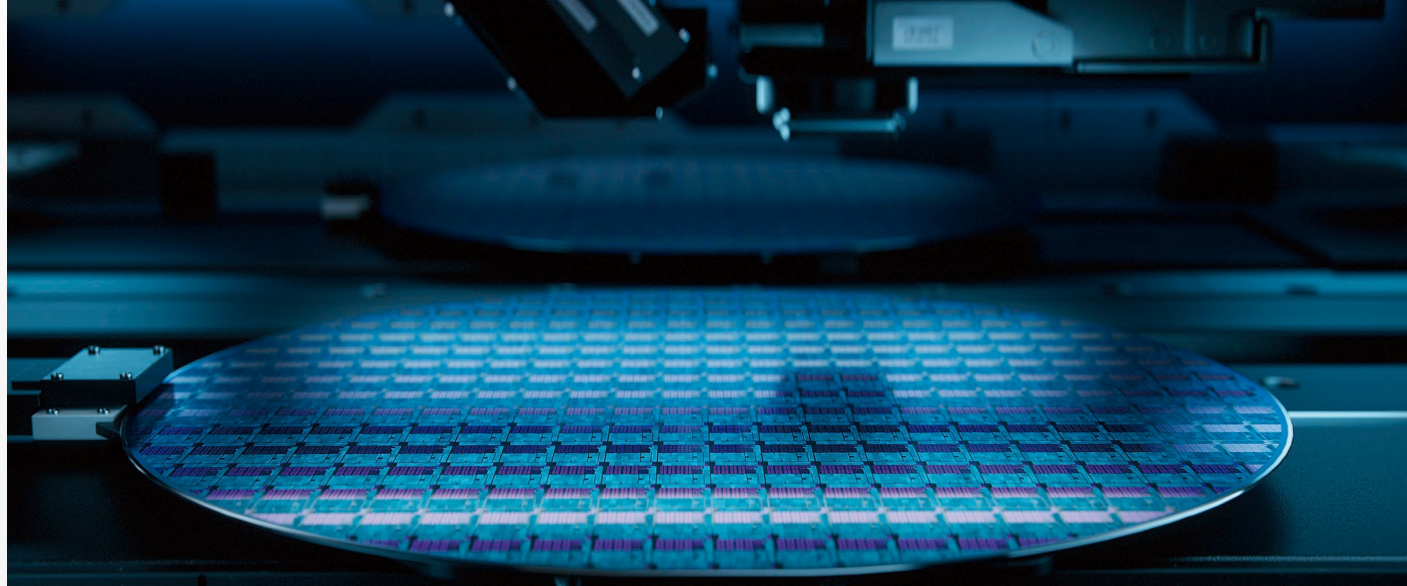
学術研究



- ・スーパーカミオカンデ/ハイパーカミオカンデ
- ・LHC(大型ハドロン衝突型加速器)
- ・すばる望遠鏡
- ・超高層大気イメージング
- ・発光材料研究
- ・量子技術

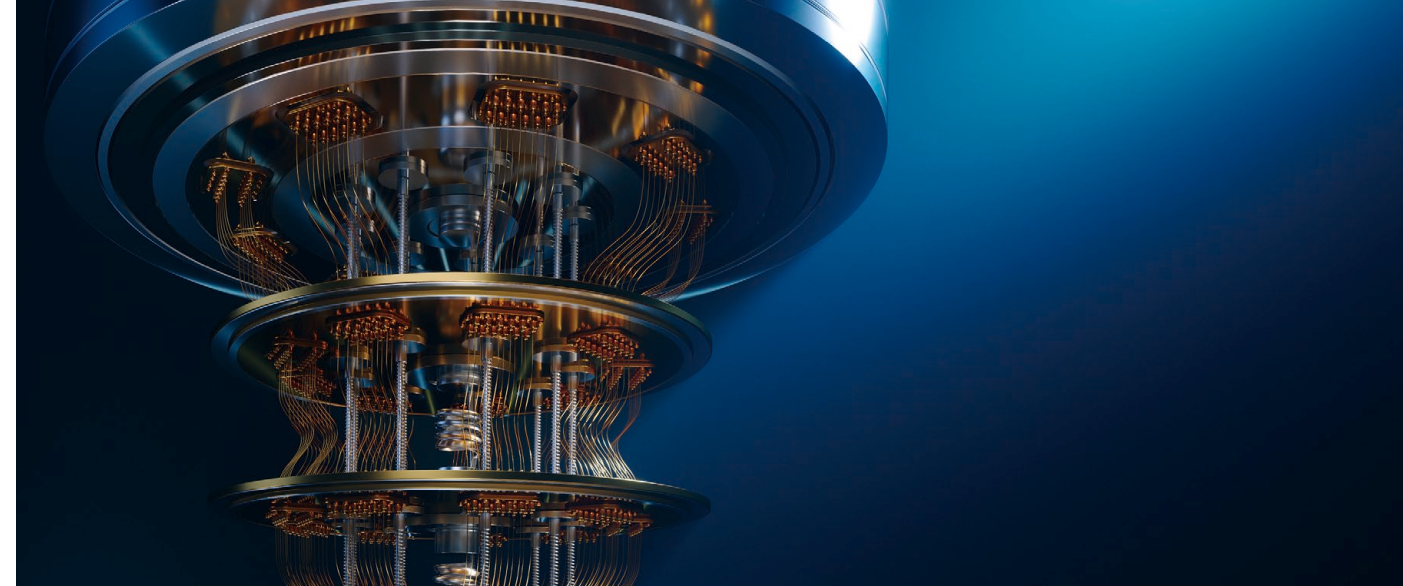
半導体

現代の生活になくてはならない「半導体」の製造・検査工程において当社の製品は幅広く使用されており、市場の拡大が期待される生成AI用半導体の製造においても当社の技術が中核を担っています。半導体の微細化、積層化に伴う課題に対し、当社の技術による高度なソリューションを提供していきます。



量子

従来では解決困難な複雑な問題を高速に解決する能力をもち、科学研究、暗号解読、医薬品開発など多岐にわたる分野で革新をもたらす可能性のある量子コンピュータの実用化に当社の技術は貢献していきます。レーザー光源、光検出器、光操作デバイスのすべてを保有する唯一の企業として市場創出をリードします。



より広く より多彩に。

光技術の可能性。



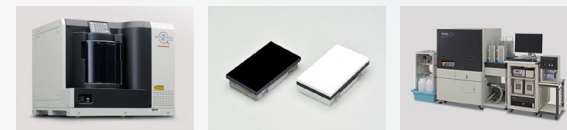
非破壊検査

当社のX線源や光センサ、カメラなどの製品・技術を用いた非破壊検査は、食品やセキュリティ用途だけでなく、電気自動車（EV）の製造においても欠かすことができません。大型化するEV用電池や電子部品の検査に対応する製品開発に加え、当社技術の融合によるビジネス展開により市場の要求に応えていきます。



医用・バイオ

人々がより長く健康に生き続ける未来のため、「患者の負担が少ない検査」「効率的な薬創り」「新たな治療法の確立」といったさまざまな領域に当社の技術や製品が幅広く使用されています。NKT Photonics社の高品質・高安定なレーザー供給により、当社の市場は従来の診断領域から治療領域に拡大し、さらなる成長の可能性を秘めています。



TOPICS

◎ 社会貢献活動

■ 学術振興活動

公益財団法人光科学技術研究振興財団と協力し、国際会議の開催や研究助成活動を通して、光科学技術の普及、啓発に取り組んでいます。

浜松コンファレンスの開催支援

光科学技術の最先端の研究を市民の皆さまにわかりやすく解説するとともに、新しい文化について考える「浜松コンファレンス」を毎年開催しています。



■ 教育活動の支援

主に小中高校生への教育活動を関係機関・地域社会と連携して実施しています。



◎ Photonてらす

■ “光”を学ぶウェブサイトの運営

フォトン。それは光のひと粒。私たちの営みに欠かせない、しかし、大きな謎に包まれた存在です。光を深く知ること、私たちの未来には限りない可能性が広がります。「Photonてらす」は、そんな「光」と「光のテクノロジー」の今と未来に出会えるウェブサイトです。



さまざまな企業情報をウェブサイト上で公開しています。



拠点一覧

ヨーロッパ・中東・アフリカ

Europe / Middle East / Africa

① PHOTONICS MANAGEMENT EUROPE SRL

② HAMAMATSU PHOTONICS EUROPE GMBH

HAMAMATSU PHOTONICS DEUTSCHLAND GMBH

- ② Main Office
- ③ Netherlands Office
- ④ Poland Office
- ⑤ Israel Office (HAMAMATSU PHOTONICS ISRAEL LTD.)

HAMAMATSU PHOTONICS FRANCE S.A.R.L.

- ⑥ Main Office
- ⑦ Swiss Office
- ① Belgian Office
- ⑧ Spanish Office

HAMAMATSU PHOTONICS UK LIMITED

- ⑨ Main Office
- ⑩ South Africa Contact

HAMAMATSU PHOTONICS NORDEN AB

- ⑪ Main Office
- ⑫ Danish Office

HAMAMATSU PHOTONICS ITALIA S.R.L.

- ⑬ Main Office
- ⑭ Rome Office

⑮ NKT PHOTONICS A/S

アジア・オセアニア

Asia and Oceania

浜松光子学商貿(中国)有限公司

- ⑬ Main Office
- ⑬ 上海分公司
- ⑬ 深圳分公司
- ⑬ 武漢分公司

北京浜松光子技術股份有限公司

- ⑮ 本社事務所
- ⑮ 廊坊工場

台灣濱松光子學有限公司

- ⑮ 新竹事務所

HAMAMATSU PHOTONICS KOREA CO., LTD.

- ⑮ Main Office
- ⑮ Dongtan Plant

アメリカ

Americas

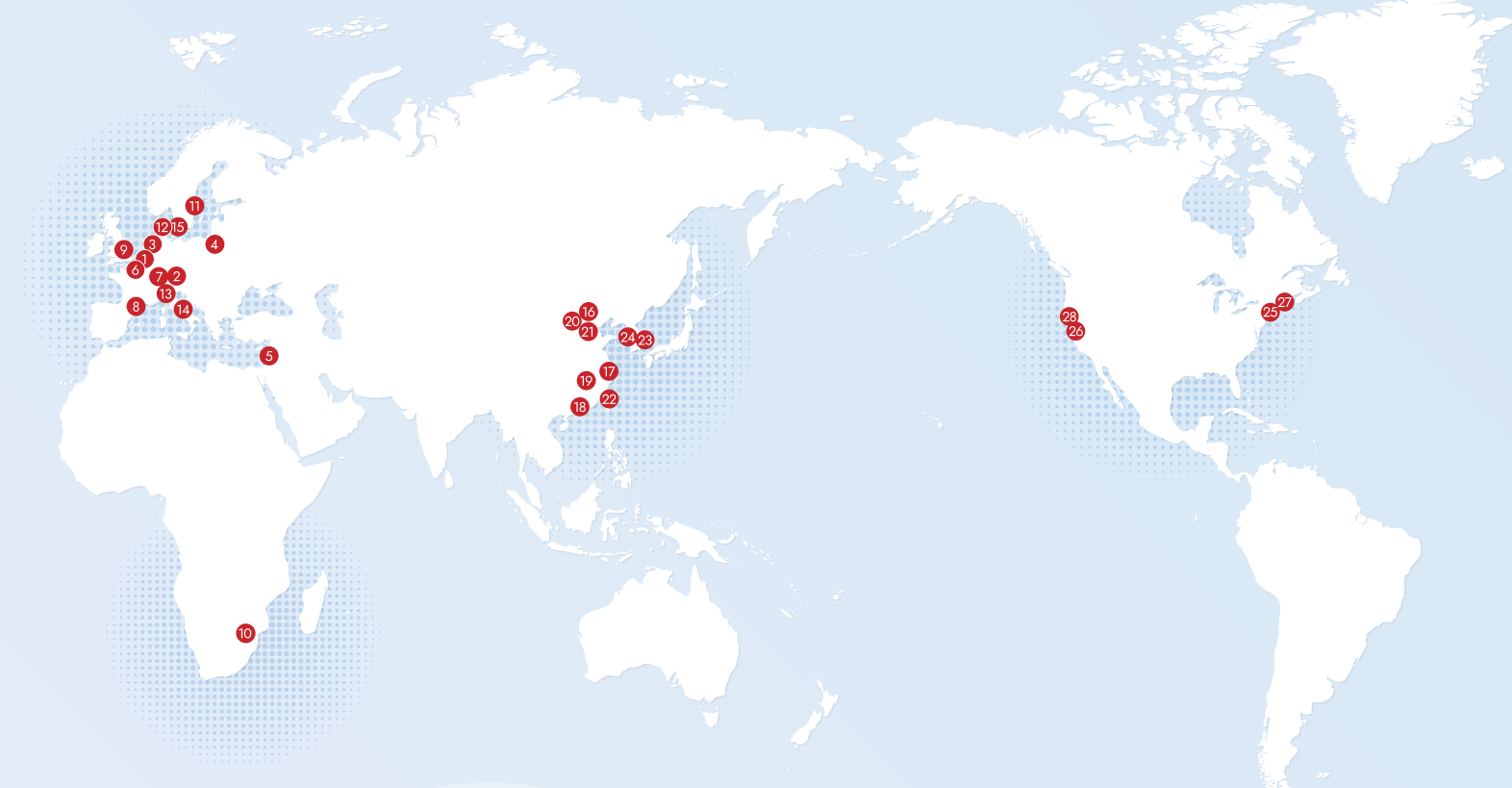
⑮ PHOTONICS MANAGEMENT CORP.

HAMAMATSU CORPORATION

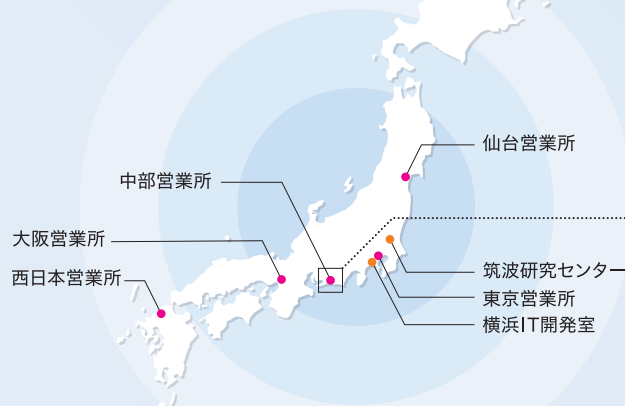
- ⑮ Main Office
- ⑮ California Office

⑮ ENERGETIQ TECHNOLOGY, INC.

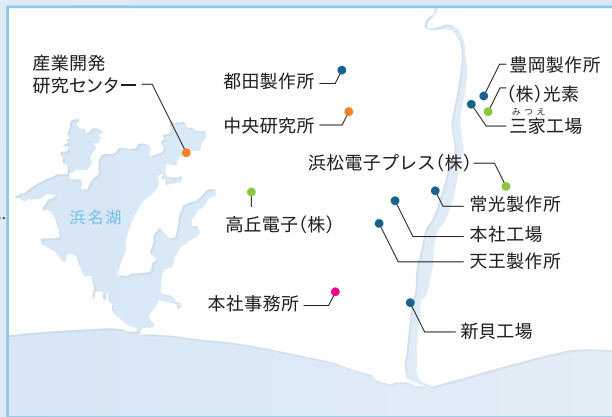
⑮ FAIRCHILD IMAGING, INC.



国内拠点



浜松市近郊



●…営業拠点 ●…生産拠点 ●…研究拠点 ●…国内子会社

会社概要

設立	1953年9月29日
資本金	35,146百万円
主要営業品目	光電子増倍管、イメージ機器、光源、光半導体素子、画像処理・計測装置、レーザ装置、レーザ装置部品
発行済株式総数	330,167,540株

役職一覧

代表取締役社長 社長執行役員	丸野 正
代表取締役副社長 副社長執行役員	加藤 久喜
代表取締役 専務執行役員	鈴木 貴幸
取締役 常務執行役員	森 和彦
取締役 常務執行役員	野崎 健
取締役 常務執行役員	鳥山 尚史
社外取締役	栗原 和枝
社外取締役	廣瀬 卓生
社外取締役	美濃島 薫
社外取締役	木村 隆昭
常勤監査役	宇津山 晃
常勤監査役	鈴木 通人
社外監査役	中野 昌治
社外監査役	平井 正大
常務執行役員	鈴木 一哉
上席執行役員	岡田 裕之
上席執行役員	岩瀬 富美雄
執行役員	南雲 幸一
執行役員	長田 修一
執行役員	豊田 晴義
執行役員	伊藤 伸治
執行役員	堤崎 正人
執行役員	高田 浩茂
執行役員	小笠原 律志
執行役員	上野 和夫
執行役員	石塚 利道
執行役員	内山 直己



www.hamamatsu.com

Cat.NO.XINT1001J19
MAR.2025DNP[5500]